



「晴耕雨読」(せいこうどく)

天気に応じて生活を調整し、体を動かす喜びと知識を深める楽しみを両立させることを指します。雨が降ってきたら、知的な体験のチャンスだと捉えるのもいいかもしれませんね。

図書館だより6月号では3年生の図書委員がおすすめの本を紹介してくれました。雨の日を開いてみてはいかがでしょうか。

国際情勢を知るために

2026年、少しでも世界のことを知っておきたい



『世界の民族と紛争』
祝田 秀全/監修
昭文社

独自の歴史・文化を築いてきた世界の民族。多様化する現代社会においても、時に衝突の原因となるのはなぜか？その真相を地図とイラストで解説。



『13歳からの地政学』
田中 孝幸
東洋経済新報社

子どもも大人も知っておくべき世界の仕組み。歴史問題の本質、ニュースの裏側、国同士のかけひきを解き明かす。



『資源と経済の世界地図』
鈴木 一人
PHP研究所

複雑化するエネルギー問題を、国際情勢や地政学的要素を経済から捉え直す。

図書委員の
おすすめ

drug's monologue

「薬屋のひとりごと」

日向 夏 主婦の友社
©日向夏/イマジカインフォス
イラスト:しのとうこ

(あらすじ)

おとなしく年季が明けるのを待つはずの猫猫だったが、旺盛な好奇心と持ち前の薬や毒の知識から、長年囁かれていた後宮にはびこる呪いを見事解明。それがきっかけとなり、後宮を管理する麗しの宦官・壬氏(ジンシ)と出会った猫猫は、自分の目論見とは裏腹に、帝の寵愛を受ける玉葉妃の毒味役へと昇進していった。

(おすすめポイント)

すごく難しい推理ではないけど、古代中国風の世界観なので昔の物や時代に合った事件がでてくるので新鮮さが味わえます。

(図書委員3年生)



医療の正しさとは

『スピノザの診療所』

夏川 草介 水鈴社

この本は、大学病院に勤めていた将来有望な主人公が病院を辞め、京都の町医者として、様々な悩みを抱えている患者や医師たちと向き合いながら「命」や「幸せ」について語っていくお話です。

主人公は、「たとえ病が治らなくても、仮に残された時間が短くても、人は幸せに過ごすことはできる。というのが私なりの哲学でね。そのために自分ができることは何かと、私はずっと考え続けているんだ」と言い、医療とは単に病気を治すことだけではないと問いかけます。

スピノザのいう「努力」が示すように、私たちは今ある現状の中で幸せを感じるために、最善を探し続けなければなりません。このような考え方こそが、現代を生きていくうえでとても大切だと思いました。

(図書委員3年生)

ただいま
展示中



『アマタツさん、ネコが顔を洗うと雨が降って本当ですか?』

天達 武史・ハレックス制作チーム

徳間書店

「ネコが顔を洗うと雨が降る」古来より伝わるこうしたことわざ、本当に正しいの？ 現代でも通じるの？ テレビでおなじみお天気キャスターの天達武史さんが、ウンチクをたっぷり交えて解説する。

今後の予定：7/6～8/31 (夏休みいっぱい)
貸出冊数無制限「借りただけどうぞ」行います